

平成25年8月 保守作業②(9/8)



より現役時代の姿に近づけようと、配管を製作・取り付けしている所です・・・が、長さが少しばかり短かったようで、製作したご本人(画面奥)は思わず「しもたねえ」。それでも何とか取り付けしていました。



修復から1年半が経過し、屋外保管という事もあって各部に小さな傷みが出てきました。傷口が小さいうちに処置をしていきます。写真は、傷んだ部分の塗膜を削っている所です。このあと、タッチアップ塗装を施します。

D60 61号機
(遠賀郡芦屋町)



今回は、特に傷みが目立った炭水車の作業を重点的に行いました。



作業終了後の姿です。大きな破損もなく、美しい状態を保っています。朝の雨は何だったのだろうかと思うくらい、見事に空も晴れ渡りました。



足元に落ち葉や雑草が目立ち、箒を持参しなかった事を少し後悔・・・可能な範囲で、手作業で除去していきました。



機関車本体は修復から日が浅いこともあってか、目立つような傷みはありませんでしたが、蜘蛛の巣があちこちに張り巡らされていて、その除去が作業のメインでした(^_^)



C11形260号機
(中間市)

「油壺」と呼ばれる部品を取り外している所です。本来ある管の蓋が無い為、持ち帰って蓋を製作するものと思われます。小さな事ですが、こういった所が「拘り」ですね。



大きな傷みはありませんでしたが、屋外保管なのでどうしても多少の色褪せや錆などが発生します。傷口が広がる前にタッチアップ塗装で処置しておきます。



作業終了後の姿です。場所が場所だけに、破損などを懸念していましたが、これまでの所、破損や落書きなどの被害はありません。これからも、この美しい状態が続く事を願います。



前頭部に人が集中していますが、何をやっているかと言えば・・・(次の写真へ)

D51形225号機
(直方いこいの村)



曇んだ部分の塗膜を剥ぎ取っていました。この日は前頭部分の作業に注力して実施したようです。



ペンキを塗り直したシリンダカバーです。新車のような輝きです。